



保育事例をめぐる対話

チヨークでアート

『幼児の教育』ではこれまでさまざまな保育現場からの保育事例を紹介してきました。「事例」には子ども同士や、子ども―保育者間の実際のかかわりが描かれる面白さだけでなく、それを体験した人が記述するという固有性があります。同時に、事例は読み手にさまざまな連想や省察を誘う力もついています。一つの事例が、立場や経験の違いによって読者それぞれの中に違う形で広がり、新しい気付きにつながるということがあるのではないのでしょうか。

今回の「保育事例をめぐる対話」は、子どもたちがチヨークという筆記用具で少しずつ世界を広げ、いつの間に「えええ？」と思うようなところまで色に染めてしまう事例報告から始まります。それを受けて私はこう感じた、という立ち位置の違うお二方のリレーをお楽しみください。なおこの実践研究コーナーは、次回から少し模様替えます。

(編集委員会)

